

第5回 富岡シルク手編みニット展に寄せて

世界中の人々を魅了した光り輝く日本のシルク。その礎となったのは、明治5年（1872年）富岡の地に創建された富岡製糸場でした。明治42年（1909年）、世界一を誇った日本の生糸生産は、外国産の安価な生糸に押され、現在では市場の僅か0.1%以下となり、とても希少なものとなりました。

令和7年度、富岡市では養蚕農家10戸と団体・企業2戸において年間5回（春・夏・初秋・晩秋・初冬）の繭生産量は約4.8tと推移しています。

本企画展は、世界遺産 富岡製糸場のある養蚕業を守り、シルク文化を次世代へ継承していくことを目的に、企画されました。富岡産の繭から繰糸された『富岡シルク絹糸』の美しさと可能性を幅広くお伝えし、北は青森県から南は徳島県まで、全国から応募された61点を展示しています。

編み手それぞれの感性と技術、そしてシルクへの想いを一日一日丁寧に積み重ねることで生まれる“世界に一つだけ”の作品として、作品から伝わる温もりや物語を感じながらご鑑賞いただけましたら幸いに存じます。

また本展では、審査員による特別賞の選考に加え、来場者の皆様にもご参加いただけるコンテストを開催しております。作品をより身近に感じていただきながら、お気に入りの一点を見つけて投票いただけると幸いです。

本展が、富岡シルクの新たな魅力との出会いの場となり、手編み手芸の手仕事の温もり、素晴らしさ感じていただく機会となりますことを願っております。

結びに、富岡市をはじめ、関係各位の皆様のご協力のお陰で、本年度も本展を開催することができましたこと、また富岡シルク絹糸を実際に手に取ってくださり、心を込めて素晴らしい作品に仕上げてくださいました出展者の皆様へ心より感謝申し上げます。

皆様の未来がシルクのように美しく光り輝くよう願いを込めて。

一般社団法人 富岡シルク推進機構
理事長 高橋 純一